

平成 25 年度市民まちづくり活動促進テーブル 第 4 回事業検討部会

日時:平成 25 年 11 月 20 日(月)9 時 30 分開会

場所:札幌市本庁舎 14 階 1 号会議室

出席者(敬称略)

河野和枝(北星学園大学社会福祉学部准教授)

喜多洋子(地域コーディネーターかどま〜る 代表さつぽろパブリックサポートネットワーク 代表)

池田啓子(株式会社特殊衣料 代表取締役社長)

黒田澄雄(特定非営利活動法人ゆいまーる理事長)

小角武嗣(札幌市市民まちづくり局市民自治推進室長)

成澤元宏(札幌市市民まちづくり局市民自治推進室市民活動促進担当課長)

望月純輝(同 市民活動促進担当係長)

河野 おはようございます。冬が間近というふうになってきましたけれども、風邪がまたはやりだしましたので、皆さまもお気をつけください。今日はお忙しい中、お集まりいただき、議題についてこれから進めてまいりたいと思いますので、これまで進めてきました経過についての議論でございますのでご協力をいただきたいと思います。それでは、小角室長から挨拶をお願いします。

小角 皆様、おはようございます。委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、早朝から会議にご出席くださりまして、厚く御礼申し上げます。今日は、第4回ということでこれまで皆さまにいただいた意見をもとに答申案を作成させていただきました。それについて、後ほどお説明をさせていただいたうえで、またご意見いただければと思います。その前に市民まちづくり活動の市民に対する最近の動きを少しご報告させていただきますと、NPO 法人を条例で個別に指定することによって、NPO 法人に対する直接的な寄附に対する税制優遇措置が講ぜられるという条例個別制度の創設を目指しているところでございますが、おかげさまで議会への素案の説明を入れて10月から11月にかけてパブリックコメント、その中もおおむね原案のままでも大丈夫という意見でした。12月の第6回定例市議会に条例案を提案して、制定されるという動きがございます。それからさぼーとほっと基金につきましては、昨年度の年報ができましたのでお届けさせていただきました。昨年につきましては、冠基金につながるような大口の寄附も多かったということで、1年間で1億6千万円集まりました。今年度につきましても、今現在、約5300万円で、昨年のこの時期と比べますと若干下回っておりますが、先ほども申し上げました通り、昨年は冠基金につながるような大口基金もあったということからいうと、比較的堅調に進んでいると評価しているところです。それと11月から12月にかけて、買って食べてSAPPOROという市内の80の企業、事業所にご協力いただき、寄附付商品あるいは寄附付メニューの提案を頂いて、市民の方がそれを買う、食べる、注文することによって一定の寄附がさぼーとほっと基金に寄せられる。この主旨として、1つは企業による社会貢献活動の機会の創出ということもございますし、もう一方、この間の会議の中でも委員からの意見としてありましたが、直接労力的にまちづくりに参加するだけではなくて、寄附も立派な参加だと。そういう気軽な寄附につながる仕組みとして、ちょっと気に入ったものを買うというのがまちづくりへの支援につながると。市民にとっての参加の一形態として普及させていこうということで今年から始めたものでございます。パンフレットに参加企業など記載がございますので、ぜひ機会があればご利用いただければと思いますのでよろしくをお願いします。会議のほうに戻りまして、今日の答申案ですが、これが3回にわたり皆様からいただきましたご意見をもとに、まとめさせていただきました。答申案につきましては、今の第1期計画を振り返っての課題、2期に向けての重点的な取り組み、取り組むべき視点、取り組みに対する基本的な考え方、方向性ということこ

ろまで答申にしてまとめさせていただいたものでございます。実際の会議の中では、個別具体的な事業展開に対するご提案もいただいているところでございますが、こちらにつきましては、答申が終わった後、行政が答申案をもとに第2期計画を策定していくということになりますので、その中でいただいたご意見を十分に踏まえながら具体的なことを盛り込んでいきたいという考えでございます。いずれにしましても、答申案が第2期計画を策定していくうえでの指針となりますので、内容確認のうえ忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

河野 ありがとうございます。今日は福士委員が欠席ということで少しさみしいのですが、始めていきます。それでは、議事にそって進めていきたいと思いますが、今、小角室長からもあったように、答申案についてご議論をいただくということですので、ご協力をお願いします。では1つ目の議題であります、第2期札幌市市民まちづくり活動促進基本計画答申案について事務局からご説明をいただきたいと思います。

望月 答申案の全体の構成、第1章と第2章の説明

河野 それでは、説明のありました部分でお気づきの点などありましたらよろしくお願いいたします。最初のところで、市民まちづくりとはと、条例を明記しているところを全面に出して書かれているので、受け手にとっても、それを拾っていくうえでもこれは非常にいいと思います。ちょっと太字にしてもいいと思います。定義をわかりやすくPRしていただけるといいと思います。

小角 下のイメージ図なども含め、この辺はかなり中で議論していて、まずは条例にもとづいてつくるということなので、条例でどうまちづくり活動を規定しているかを順番に説明して、人によってイメージがいろいろ分かれているが実はどれもまちづくり活動なんだという、担い手も多様だし、活動の種類も多様なので、どれも限定的に捉えるのではなくて、なるべく身近なところで、ちょっとした公益的な活動というのはどれもまちづくりにつながるということを。幅広い主体がいる、寄附も含め多様な活動がまちづくりというイメージ。

喜多 先日、地域づくりの地域ってなんですかと誰かに質問した時に地域ってあなたのことですよ。主体はあなたなんだっていうのをもうちょっと強調してほしい。自分たちのことは自分たちでやるという主体性のところを個人が集まった団体で、個人でもできるし。主役はあなたのようなイメージ。

成田 現状のイメージ図だと町内会に参加していないから関係ないのかなっちゃいますね。

喜多 これだったら町内会は関係ない、NPO は関係ないという考える人もいるかもしれないが、でも主体はあなたなんだと上で言っているのに、イメージ図の中にあなたがない。

成澤 個人が自分であればわかりやすいかもしれない。

望月 個人からグラデーションでひろがっていくような絵ですよ。

喜多 個人を真ん中にしたほうがいい。

小角 日常でやっていることも、何かの主体に参加することもまちづくりという感じにするとわかりやすい。

喜多 個人が今の位置だと本当に関係ないわというふうに受け取っちゃうから、個人は真ん中に。そして枠が四角いじゃなくて丸のほうがいい。四角だと固いイメージ。

小角 それをいうとなんで町内会と NPO が太線で他が細線なのかということも気になる。

河野 NPO も離れた感じになっているのでこの辺もどう位置付けていったらいいか。もちろん、独立した法人なのでそれはそれでしょうけれど。

喜多 この中に市民活動団体みたいなものは入れなくていいのか。NPO って法人格を持っているたちだけじゃなくて、小さい市民活動をやっている団体もある。いろんな団体があるけれども主役はあなたという表現ができないか。

池田 違った見方をすると、町内会がとても大事だということが伝わってきます。

成澤 町内会や NPO 法人だけじゃないんですが、それが自然と太線になってしまったというところは確かにあります。

喜多 これをそのまま出すと、批判されると思います。町内会はやっぱ市の直轄のところでこういうふうに思っているんじゃないかと言われる方もいらっしゃるのでは。主役はあなたというところを全面に出さないと肩入れしている団体が太字で表されているというのが見え見えになってしまう。

望月 役割分担的なことですね。地域を長く責任をもって見守る・担うという部分と専門的なミッションやテーマを持って地域に関わっていくみたいなのところも、上手く書ききれないんですけれども。

池田 医療とか福祉はいらないのか。社会福祉法人や医療法人など。

喜多 それは企業の中に入ってしまうのでは。

池田 企業とは違うと思う。

河野 NPO に近い感じになるかもしれない。

成澤 特定テーマで NPO とともに事業支援をやっていくということで、同じような括りになるのかとも思う。

小角 個人あるいは家庭を中心にしたうえで、地縁コミュニティ系のもの、テーマコミュニティ系のもの、企業・商店街がある。それがネットワークしていて、個人が関与していくというようなイメージになるかと思う。そうすると、いろんな分野の主体もある、それに対する活動の根源は一人ひとりの人なので、それが上手に表れるといい。

河野 主体は多様に生まれているというのも、この答申の 1 つの特徴でもあるので、その辺も活かしながら表現できればと思います。なかなか難しいと思いますが。その他、文言で気になるところなど何かございますでしょうか。大丈夫のようですので次の説明をお願いします。

望月 事務局より第 3 章の説明

河野 ありがとうございます。第 3 章、重点施策の 1 から 7 のところ、最後のまとめで、みなさんからご意見などありましたらお願いします。

望月 途中の説明がわかりやすい、わかりづらいなど含めてご意見をいただければと思います。

河野 だいたい中身としては、これまでに皆さんと議論してきた内容が含まれていると思います。

喜多 文章の中にコミュニティデザイナーという単語が出てきていますが、これでわかりませんか。

望月 注釈がございまして、人と人をつなぐ仕組みをつくり、地域や社会をよりよいものに変えていく人と記載させていただいております。

喜多 最近読んだ本では、タウンマネージャーという言葉がありました。タウンマネージャーは、コミュニティデザイナーよりは、もっと地域に密着して、例えば商工会議所と地域をつないだりしている人たちです。商店街再生などいろいろな再生をやっている人がタウンマネージャーという本に出ているので、コミュニティデザイナーよりも、タウンマネージャーにして、注釈をつけるほうがいいかなと思います。

望月 使われ方としては、タウンマネージャーとはかなり具体的で、コミュニティデザイナーというともう少し地域の萬的なあつて、ソーシャルデザイナーというと基本的はどこにでも反映できますという、クリエイティブな感じの印象を受けています。

喜多 タウンマネージャーのほうが、言葉的には認知されていないので、注釈が必要だと思いますが、コミュニティデザイナーというよりは、タウンマネージャーなのかなと感じた。

成澤 両方載せて注釈を付けるという形にしてもよろしいでしょうか。

喜多 そのほうがいいと思います。コミュニティデザイナーも山崎亮のような人がいるので何となくわかる人がいるかもしれませんが、タウンマネージャーはまだ知られていないので、これからはタウンマネージャーが大事かなと思います。

河野 私はタウンマネージャーというのによく分からないのですが、ある意味ではコミュニティづくりは意識的に改革していくとか、文章はより良いものに変えていくという意味で使われていることが多いと思います。タウンマネージャーの概念を考えながら使われていくと良いと思います。

望月 例示として出しながら、タウンマネージャーと言われたり、ソーシャルデザイナーと言われたりというのを示しながらというところでしょうか。

河野 そうですね。その他ございませんか。

喜多 14 ページのさらに地域の中ではコミュニティカフェなどのところがあるんですが、それだけじゃなくて地域のお茶の間みたいなところを挙げないのでしょうか。

望月 以前、河野委員からカレー屋さんのお話を効きましたし、宮田屋さんではコーヒー 1 杯分でグループで使えるところもありますので、そういったことを含めてコミュニティカフェなどの飲食店としてあります。

喜多 後ろの文章につながるために企業の理解・協力を得て、場所を提供しているところというふうに書いてあると思いますが、その場としては地域のお茶の間みたいなのところもあると思います。

河野 例えば文言で言えば、どういう表現にしたらいいですか。

成澤 地域のお茶の間のものっていうのは、重点施策 3 で整理してもいいのですが、重点施策 6 で居場所についてまとめています。

喜多 重点施策 6 のほうで出てきて、14 ページのほうはちょっと違うということですよ。

成澤 重点施策 6 でお茶の間ではないですが居場所という言い方はしています。

喜多 わかりました。

成澤 関連して、今、課題を見ていただきましたが、評価が不十分というのが多いです。全て不十分というのは認識しているんですが、現計画を 5 年間やってきて、ある程度これはやったというものがあるかなと思ってたんですが。例えば 14 ページの第 1 期の課題のまとめで地域にある場の資源が有効に活用される仕組みがないと言い切ってしまうとまとめているんですが、本文中の 14 ページで地域の活動の場を住民が企画して、整備する取り組みに市が補助を開始しているということで若干仕組みづくりに着手しだしているんですね。それで、全くないというわけではなくて、例えば仕組みづくりがまだ途上段階にあるだとか、若干ちょっと完璧なものがあればいいのですが、ないので来期計画の全部不十分なのかというよりは、ここはちょっと動き出したというほうが説明しやすいかなと思います。それが活動の場のところ、多様な連携の中で 15・16 ページで確かに連携はまだ十分ではないですが、16 ページの第 1 期課題のまとめの 2 つ目で異種団体が連携しまちづくりに取り組める環境が整っていないという中で、障害者団体が連携してお買い物 de プロジェクトというのをやったので、それを 15 ページに例示で障がいのある方の就労支援とか、発展途上とか。この辺も不十

分なところが、発展途上にあるとか、皆さんの評価的なものでないかなど。それから17・18ページの企業の関係なんですけど、パートナー協定を10社と結んでおり、各局の取組も実は少し広がりを見せています。16局区で60協定を結んでいるので、例えば地域課題の第1期のまとめの中で、環境整備が不十分とか、発展の途上にあるとかどうでしょうか。

河野 どうでしょうか。課題のまとめの中の文言で、少しずつでも進歩している、発展しているということも表現として入れていったほうが次につなげるという意味でもいいのではないかといいところですね。仕組みがないとなると、ないところからまたスタートしていかなきやいけないので。

黒田 16ページの第1期の課題のまとめで異種団体が連携しまちづくりに取り組める環境が整っていないですが、整いつつあるとかいう表現がいいと思います。見守り等については、業種の違うヤクルトさん、電気屋さん、新聞の販売店とかがやっていますので、整いつつあるとかいう表現のほうがいいと思います。やってないと言ってしまうと今まで何をやってたのかということになる。

成澤 異種団体はまだまだなんです。次にもどちらかに入れようと思うんですが。

望月 まち協とか動いているところはある程度、儲けていますので。一旦、課題としてまとめてありますので、縦にみるとない・ない・ない・不十分となるのですが、逆に正確にお伝えする意味でも手法を模索しているとか着手している中で進め方を模索しているとかありますので、そのあたりは表現を検討します。

河野 成果指標があるので、数でどうしても見てしまいがちです。指標はすごく大事なんですが、文言的に今進んでいる途上であったとしても、こういうふうに進んでいるという評価があって、その上で課題として挙げられるというほうがわかりいいと思います。

小角 同種団体と連携しているのが6割くらいあるんですが、異種はまだそれほどないというデータが確かあった。

喜多 今、我々もいろいろな助成金のまとめをして成果と課題をまとめるんですが、成果のまとめ方について、助成金団体からアドバイスをいただきました。ちょっとでも行ってないと思ったら、課題のところで行っていないと言い切ったほうが次につながるといふふうにいわれた。全くやってないじゃなくて、ちょっとは成果につながったと思ったので、あまく付けたんでしょと言われて、こういうふうに行っているというふう

に言ったんですが、それはその部分だけはやってないというふうに言い切ったほうが次につながる。本当に次にそこをやっていこうというふうになるということもあるので、本当に不十分だったと思ったところは不十分だったと書いたほうがいい。

河野 それはもちろんそうだと思います。ただ、今進んでいるところもキチンと見ていくというのも評価の1つですよ。それを発展させるという意味で。

喜多 本文にそれが書かれているとしたら、課題は課題じゃないかと思います。

成澤 その部分で、14ページの第1期の課題のまとめの地域にある場の資源が有効に活用されるような仕組みがないと、仕組みがないと言い切ってしまうと、同じく文中で市が補助を開始していて、地域活動の場の整備事業少し広がりつつある。今、補助仕組みがあるけれども、まだ2年目なんです。もし書いていくとしたら、この表現を直すとしたら、途上段階であるとか、開始したばかりだからまだまだ拡充していく必要があるだとか、そういう言い方で表現していいかなと。制度着手は第1期でできたので、第2期は先生方の課題を受けて、拡充していきたいですという説明がうまくできるかなと思っています。

小角 一部では、地域の人に活動の場、整備、石とか雪の事例は出てきているけれども、まだ全市的に普及しているような状況ではない。だから2期では、幅広く集中して広めていくという展開を図っていくという必要があると。箱物だと稼働率から見ると、本当は需要があるのかなと思いつつ、また箱物を新たに作るというのは難しいですし、アンケート結果から得られた身近な場所というものが、かなりキーワードになっていて、2期の活動関係は拠点系より、身近な場所にどうやって活動の場をつくるかという話になると思います。

喜多 身近な場所にどう作るかという文言も入れたほうがいい。

河野 重点施策7まではよろしいでしょうか。では、次の章に移ります。事務局お願いします。

望月 事務局より第4章の説明

河野 ありがとうございます。それでは、第4章ですが、皆さまのご意見、資料についての検討もいただければと思いますのでよろしくをお願いします。

小角 計画の中ではどうしても成果指標を目標値として掲げる時に第1期計画の中で、まちづくりの参加経験があるというのはまさに成果指標なんですが、ものによっては非常に手法を限定的で、まちづくりパートナー制度など、ありながら指標的には研究会を通じた取組数でやってしまったので、あれだけだと上澄みで広がってないけれども、他のところでは広がっているということで、参考資料としてお示しをしている。なるべく、次は全体を示すような手法をあまり限定するよりも、結果としてどうなっているのかが見えるほうが良いと思っています。

河野 非常に市民活動はハードの部分よりもソフトの部分が多い地域の中ではたくさんあると思います。計りきれないところですね。意識そのものだってどれだけ計れるといたら、そういう物でもないのに、非常に難しいと思います。あまり指標にこだわり過ぎてしまうと数だけで捉えてしまいがちになりますので、そこは難しいところですね。そういう意味での成果指標の候補なんだろうけど、中身の部分ですね。

喜多 すごくまとめられていていいと思います。今後、この指標に基づいてこれを評価していかうというふうに見られるのですごくいいと思うんですけど、参加のところでは、エルプラザの市民活動サポートセンターの登録団体数、今の行政の足りないところ、企業でもできないところを市民活動として立ち上げようとしている人たちが本当にいるんだなというのを感じるので、登録団体数も参加の中に入らないかなと思います。これも参加の1つの指標だと思います。

河野 カタチとして見えるものですね。

喜多 向上のところでも、登録団体の種別、活動分野など

成澤 ご承知いただいている通り、NPO法人が複数の活動をやっていて、定款に書いていてどれに力を入れているのかなかなかわからない。そうすると保健福祉が大多数を占めてしまうと思います。

喜多 福祉の中でも今までにない違う分野が増えてきているというのが向上になるのかなと思うんですが。

成澤 アンケートを取った時に、活動分野をみると、全国傾向とほとんど変わらないです。

喜多 間違いなく今までとは違う社会問題が出てきていて、そこを補完するような市民活動が生まれてきているというところで判断できないかなと思います。

成澤 認定のところで社会課題を自分たちで感じとって、自分たちの団体に寄附を寄せてもらおうということで、認定を取るということで、若干ここで書かれる可能性はあるかもしれない。

小角 今回向上のところは、来期計画はどちらかというと人材育成に特化したかたち。いろいろデータなどを見ていくと人事難が引き続きありますけれども、財務基盤、調達のノウハウだとかも含めて、その部分。それと色々な団体運営のノウハウの蓄積。結局は人に対してノウハウをどう伝えるか、ネットワークをどう作るか、人脈をどう作るか人にもどってくるんですけれども、人材育成というよりも、そういうことを含めてトータルでやはり運営基盤の強化をしていかなきゃダメだと。その自立性が上がってきていますというのを示すのに何かいいデータがあると本当はいい。役所が考えると、自主財源比率だとかになっちゃうんですけれども、なかなか難しいですね。収益事業じゃないと。本当にそういうのがいいのか、寄附の調達能力だけでいっても、活動の内容によっては、寄附金が目に見えて、市民の理解を得てきづらい。だから条例個別指定制度をつくるので。そういう生々しいのではないけれども、自立的な活動ができていたとかという段階を何で図るのが一番いいんだろうと。その1つが認定NPO法人制度が埋めるということもあって、そこは団体運営基盤もしっかりしているし、市民に対しての公益性の認知も十分されているということをもって、認定されるわけです。

喜多 実際に増えるかどうかですよ。札幌市だったら1つ増えるかなというところ。

小角 これで目標が20とかだと、870もあって20かと言われてしまうかもしれませんが、本当はそうじゃないのがあればそのほうがいい。

成澤 指標にならないかもしれないけど、事業の取り組みとしては、進捗管理とか社会課題の連携チャレンジ事業で、先ほど出た地域の茶の間を助成しているんですが、例えばそういったもの。それは種類ごととか、事業数だとか、事業の進捗管理とか、関連事業の進捗管理はきちんと取れる可能性はある。さぼ一とほっと基金の助成を受けた中で、例えば引きこもり関連事業があつて、子どもの育成分野でいったら保健福祉をもう少し掘り下げるとか、子どもの健全育成だとかで。目標をどこまで設定するかにはなじまなくて、ただ社会課題に気づいて団体がどのように対応したかという事業の進捗管理は取れるかなと思います。

喜多 この前、事業報告みたいな相談を受けたのはウロギネがクラウドファンディングをや

ったんです。readyforをやったんですが、よくやったなと思って。それも1つのステップアップ、向上ですよ。それもエルプラザの仲間からこんな風に事務局から言われて、どんな風に文章を書いたらいいだろうとか、いろんな人に相談しながら、readyforをやり遂げてお金を集めてプロジェクトが成立したんです。最後、あと20万というところで、自分でお金を出すしかないと言っていたのに、それ以上のお金が集まったと。向上というところでは、NPO法人でも何でもないあんな小さな団体が自分たちのお金を集めるためにそういうことをやったということが向上の1つになるから、そういうようなところが拾えればいいかな。

成澤 そういう事例は他の団体のヒントにもなりますし、向上策というか。

喜多 今度HPでこんな相談がありましたというところに載せようかと思います。

河野 他に何かございますか。団体に対するアンケート調査などで福祉といっても、ものすごく幅が広く概念もどんどん広がっているの、次回調査する時にはもうちょっと丁寧に項目を細分化していったほうがいい。今地域の中で学習ボランティアとか児童会館とか使いながら。交通費くらいしか出ないんですが、地域で広まっています。その教育支援が福祉に入るのかどうか。ある意味では貧困対策です。そういうところも拾い上げていくと広がりがあると思います。

喜多 それだけ広がってきているし、社会課題があってそれを解決していこうとしているのを見せていくというのは大事だと思います。

河野 子ども・若者・団塊世代のまちづくりへの参加促進なんですけど、若者とか高齢者とかの社会参加はあるし、体験機会を設けていくというのもあるんですけども、子どもの権利条例からくると子どもの声をきちんと反映させていくような。体験だけじゃなくて、声を汲み取ることも、子どもたちにとってみたらある意味の社会参加になってくると思います。震災地域でも、NPOを中心に子どもの意見でまちをつくらうという取組がはじまっています。実際には何かできるというのは限定されるので、声を聞くというのはどこかに文言として入れていただければなと思いました。

喜多 市民自治推進のところでは、子どもの声を聞きながら必ずこの施策に反映できるようにというところだと思いますし、地域の公園づくりにしたって子ども意見を聞いたり。

河野 子ども達同士でまちづくりのワークショップをやったりしています。それが実現するかどうかは別ですが。

喜多 子ども達が考えるきっかけにはいいかもしれない

河野 そういう取組も地域の中で展開されていけばいいかな

黒田 私も地域でも小・中・高校生が集まって町内会に入って、ワークショップなどをやっている。自転車を乗るときにライトを付けないとかありますよね。そういうのを話合っ
て、みんなでいろんなアイデアを出しています。子どもたちが集まって話をする場
を地域の人たちが積極的に設けなきゃいけない。子どもたちは我々が考えられないよ
うな発想ができます。地域にはいろんな人がいますが、子どもの視点に立って考える
ことが一番良いコトだと思います。

河野 そういう実践も実際にあるわけですから、文言だけの話ですが入れていただければと
思います。

望月 子どもの主体性を発揮する参加機会の創出というようなことですね。

黒田 参加のところでいうと団塊の世代の人が児童会館に行って子どもと一緒に遊ぶとい
うことをやっています。1人がやりだすと他の児童会館でも仲間が行って、俺のとこ
ろでもやるからと言って動いています。そうすると地域の顔が見えるし、子どもと親
しくなれる。

河野 よろしいでしょうか。この指標のところでは、議論が不十分かなとも思いますが、ま
た何か気がついたことがあったら事務局に届けていただくということで、よろしくお
願いします。全体的に見て何かお気づきの点などございませんでしょうか。

喜多 27ページの重点施策のところの二重丸が付いているところ。これが資料の次ページに
反映されているということですか。

小角 一旦全部、二重丸のついていないものも書いていて、その中でも特に力を入れていく
ということです。

望月 32ページの重点施策の網掛けが外れていました。

小角 前の話だと、参加の部分は指標の部分がなかなか伸び悩んでいて、参加意欲・興味は
ありながら参加をしていない30%に対して網掛けというのは、積み残しがある。ここ
は、まずまちづくりとは何かを理解してもらうこと、いろんな対応がなされる機会、

子ども・若者・団塊の世代が今回弱かった部分なので、必要かなど。向上の部分でいえば、講座はやっているし、人材育成だけではなくて、総合的な支援ということでやっていく。交流の部分は身近な地域で、連携で言いますと同種団体とか多様な団体間連携の促進というところあたりかなど。一番最後は各区に対して非常に町内会、市民活動団体の皆さんに協力いただいて活動してきている。そこはすごく評価をしている一方で地元企業の事業所、法人市民をもっと上手に活用していくことを考えています。

喜多 それは私たちも思っています。身近なところでつながっていければと思います。

河野 重点施策の二重丸はよろしいでしょうか。

喜多 この二重丸がどうして二重丸になったのかという文言はいらぬのか。

小角 課題のところを踏まえて関連するものに二重丸という感じではあります。

喜多 重点施策につけましたと書いてありますが、それの中でさらに二重丸だよという文言は必要ないでしょうか

小角 第3章の来期の課題の後にある来期に踏まえる点のあたりとの関連性に触れておいたほうがいいかもしれない。それを踏まえて特にというふうにしたほうがいいかもしれない。

河野 第3章、22 ページのまとめのところですね。これが重点施策につながっていくということですので。ちょっと触れておいた方がわかりいいということですね。その辺もご考慮いただければと思います。その他についてはございませんでしょうか。残されているのは図表のところ、もうちょっとわかりいいものにしていただければと思います。ではだいたい意見が出たということで、今日の会議を閉じることとなります。事前に送っていただいた答申案に丁寧に委員会での私たちの声を拾っていただいて事務局は大変だったと思いますが、またさらに今日皆様から出されたご意見を含めて頂いて、まとめていただければと思います。事業検討部会の答申案というふうになるんですが、それで本部委員会に持っていくということになると思いますので、今日の意見をまたご検討いただいて、またお気づきの点がございましたら、市のほうにお届けいただければと思います。以上で、この答申案を皆様にご了承いただけるということでよろしいでしょうか。まとめとしてはいい方向にまとめたのではないかと考えておりました。基本目標が4つにきちんと整理されたということと、重点施策が二重丸も含めて、整理されているなど思いました。ぜひ、今日の意見も含めて作っていただ

ければと思います。それでは本日の議事が全て終了しましたので、ご協力に感謝いた
しまして終わりたいと思います。ありがとうございました。

望月 事務局より事務連絡

以上